

# 埼臨技だより



発行所 公益社団法人 埼玉県臨床検査技師会 〒330-0072 さいたま市浦和区領家7-14-7  
TEL 048(824)4077 FAX 048(824)4095 URL:<http://www.sairingi.com/>  
携帯URL:<http://www.sairingi.com/keitai/index.html> Twitter : @sairingi

## 第51回 埼玉県医学検査学会のお知らせ

開催日：令和5年12月3日(日)

会場：大宮ソニックシティ

テーマ：Let's connect!

サブテーマ：臨床検査技師になってよかった

～ 人との出会い・検査との出会い～



第51回 埼玉県医学検査学会  
事務局長 塚原 晃

第51回埼玉県医学検査学会の事務局長を務めさせていただきます、戸田中央総合病院の塚原晃と申します。新型コロナウイルス5類見直し方針で、ウィズコロナに向け新型コロナ対策が転換期を迎える中、医療機関内はゼロコロナを求められ、会員の皆様におかれましては通常業務にまだまだ負荷がかかっている状況かと思えます。12月には安心して学会が開催される状況になっていることを願うばかりです。

今回の学会テーマは「Let's connect!」。会員の皆様とのつながり・出会いを大切にという想いを持ちながら、矢作強志学会長、小関紀之実行委員長を中心とした学会運営が始まっております。学会ロゴも決定し、現在は急式政志学術部長率いる学術部を中心に学会企画・日程案を検討しておりますので、皆様楽しみにしてください。

また柿沼智史SNS担当部長から、近日中に学会公式HP及びLINE案内をしていただきます。学会情報を定期的に配信しますので、ぜひ閲覧及びお友達登録していただき、多くの情報をゲットし会員皆様とつながる学会にいたしましょう！



会議の様子（下段：矢作学会長 上段右：塚原事務局長）

## 令和4年度 第2回 検査室管理運営委員会研修会報告

テーマ 職場におけるコミュニケーションとメンタルヘルス

あなたの職場は? ~コミュニケーションの取り方とメンタルヘルス~

実施日時：令和5年2月15日(水) 19時00分~20時30分

会 場：Web開催

講 師：根生 一治 氏 (医療法人社団富家会富家病院 臨床心理士)

参加人数：会員170名

令和4年度 第2回検査室管理運営委員会研修会がWebにて開催された。

今回は「職場におけるコミュニケーションとメンタルヘルス」をテーマとして、臨床心理士の根生氏を講師に迎え開催した。

前半はコミュニケーションについてのお話であった。人間は基本的に「話をしたい」生き物であることを前提に、良い人間関係を築きたいと思ったらまずは話を聞くこと、話を聞く=相手を理解することで良好な関係性が生まれる。どの様に話を聞いていけば良いか“共感的理解”について説明があった。また、話し出すときはASK（訊く、尋ねる）ではなくLISTEN（聴く、話し手の波に乗る）とすること、対等感⇌ラポールについて説明があった。①話し手の波に乗る②聴き出そうとしない③なぜ、その行動を取らなければいけなかったのかを考えながら聴く、時に対等感⇌ラポールが生まれるとのことであった。

後半はメンタルヘルス（精神衛生）、自分でできるストレスケアについてのお話であった。ストレスとはうまく付き合うことが大切で、ストレスのもと（ストレッサー）とどの様に付き合っていけば良いか、セルフケアの3つのキーワードで説明があった。ストレスを「知る」、ストレスに「気づく」、ストレスに「対応する」という3つのキーワードのなかで自分でストレスに「対応する」コーピング（意図的に行なう対処法）について主に説明があった。コーピングには①認知的コーピング（頭の中の切り替え）②行動的コーピング（具体的な行動）があり、意図的に行なうことで前頭葉が活発になり効果的であるとのことであった。今回は自分自身で解決する方法の説明であったが、ストレスは一人で抱え込まないこと、気晴らしで行なっていることが辛くなったら相談・受診をとることであった。

ここ数年のコロナ禍において、職場でもコミュニケーションの取り方が難しくなっているように感じていた。また、コミュニケーション不足よりお互いのメンタルヘルスの不調に気づきにくくなっているように思う。今回、対人関係での有効なコミュニケーションのあり方、自身でのストレスケアについて具体的な手法で解決することについて理解する機会を得ることができたと思う。

(文責：松寄朋子)

## 令和4年度 ワークライフバランス推進委員会 研修会開催される

令和5年2月12日(日)ワークライフバランス推進委員会主催の研修会が開催された。今回With youさいたまを会場とし、久しぶりの現地開催であったが34名の参加があり、盛況のうちに終了した。以下、研修会に参加した会員の感想文を掲載する。

埼玉医科大学国際医療センター  
室谷 明子

今回、岡崎市医師会の椛山広美氏と、女方歌舞伎俳優として活躍中の林佑樹氏を講師としてお招きし、約2年ぶりに対面での研修会を開催することができた。

講演1では椛山広美氏より、女性に関する法律や出産・育児を経験しながら働く女性を対象としたアンケート調査結果を基に、女性部会の経験を踏まえた貴重なお話を聞くことができた。働く女性の活躍を後押しする法律として、平成27年に女性活躍推進法が成立し、令和元年に改正法が成立、公布された。この法律により、女性が家庭と仕事を両立しながら且つ長期的にキャリアを形成することができる職場環境が期待された。しかし、職場のストレスが増すことにより、プライベートとの両立ができなくなるなどの理由から、女性管理職の増加が懸念される傾向が見られ、育休復帰する約4割が職場復帰に不安を抱えていることがアンケート調査結果からわかった。家庭と仕事を両立するためには、職場としての支援・理解・後押しやパートナーの協力、そして意識改革が必要である。女性が仕事にやりがいを見出しながら、社会の一員として、育児や介護に従事することのできる充実した生活に向けた具体的な取り組みや支援制度が今後必要であると思われる。私自身も働きながらの出産、育児の経験者である。この経験を活かし、女性のより良い職場環境づくりに貢献していきたいと感じた。



講演2では、林佑樹氏による「美しい所作はどこから？」をテーマに、厳しい修練を積み重ね、女方歌舞伎俳優として舞台にかける思いを、記念すべき第1回自主公演である「男の花道」の映像を交えながらお話していただいた。15分ほどの映像ではあったが、その美しさに会場の誰もが見とれてしまった。舞台を見に来るお客様に夢の世界(時間)を届けたい、そして何よりも自分が楽しむことが大事だとおっしゃっていたのが印象的だった。医療とは全く異なる世界ではあるが、「病で苦しむ患者さんのため」を根底に業務へ従事する我々の思いと何処か精通するものを感じた。日本の伝統文化で培われてきた奥深さに触れることができた貴重な時間であった。林氏が演じる日本女性は、芯が強く、周りに優しい女性だという。芯の強さとは、精神力の強さを意味する。自分の信念を貫き、困難な状況であっても諦めずに前に進んで行けるようなそんな女性になりたいと思った。



林 佑樹 氏

地方独立行政法人埼玉県立病院機構埼玉県立小児医療センター

戸田 有美

講演1では岡崎市医師会の梶山広美氏からワークライフバランスについて講演があり、仕事と生活の調和の現状を知ることができた。家庭との両立が難しくキャリアアップを諦めたり、仕事の退職を考える人が少しでも減らせるよう、両立支援制度を充実させ、復帰しやすい職場環境を整えることが必要であると感じた。



講演2では臨床検査技師の仕事とは別世界の俳優として活躍されている林祐樹氏の貴重なお話を聞き、女方を演じる中で美しい所作がどのようにして生まれたか実演を通して学ぶことができた。姿かたちを似せるだけではなく、女性の奥ゆかしさを表現することへの日々の努力と楽しみながらお仕事されている姿がとても素敵であった。

短い時間ではあったが、とても有意義な時間を過ごすことができ、講師の皆様、企画・運営をしていただいた委員の皆様、本当にありがとうございました。



## 研究班研修会報告

テーマ **遺伝子検査を学ぶための最初の一步**

主催 遺伝子染色体検査研究班

実施日時：2022年11月8日 19時00分～21時00分

会場：Web開催 教科・点数：基礎－20点

講師：飯野 望（埼玉医科大学保健医療学部臨床検査学科）

参加人数：会員36名

出席した研究班班員：小内玲子 園山政行 石橋佳朋 折原悠太 相良真理子 松岡優

研修内容の概要・感想など

第1回遺伝子染色体検査研究班研修会が開催された。今回は、「遺伝子検査の基礎」というタイトルで班員である飯野氏が講演を行った。

「遺伝する」ということはどういうことなのか、「遺伝子」とはどういうことなのか、から始

まった。分子生物学では遺伝子の基本であるセントラルドグマでDNAがどのように変化をしていくのか、DNAとRNAの関係を知ることになる。

また、遺伝子は細胞核に存在し、その中の遺伝子は所定の場所が決まっており、染色体の中には遺伝子が詰まっているというわかりやすい説明で遺伝子と染色体が結びつかなかった方も、より理解が深まったことと思う。

遺伝子検査といっても種類があり、現在、遺伝子検査の中には、大きく分けて3つの検査が存在する。

1つ目は、病原体核酸検査である。ヒト以外の遺伝子検査で近年最も多く行われている検査に、新型コロナウイルス検査がある。

2つ目は、体細胞遺伝子検査である。この体細胞遺伝子検査は、つぎの世代に伝わらない遺伝情報の検査で、対象には「がん」などが挙げられる。

そして3つ目は、生殖細胞系列遺伝子検査である。これは、一生変わることのないヒトの遺伝子変化で、つぎの世代に伝わる遺伝情報の検査である。単一遺伝子疾患や1塩基多型、個人特有の遺伝情報に係る検査がある。

では、検査はどのようにおこなうのか。また、遺伝子検査をおこなうために注意する点、検査に必要な試薬の特性や種類の紹介から解析方法までわかりやすい説明であった。臨床検査の多くの分野では機械化が進んでいるが、遺伝子検査では用手法が多いことを改めて思った研修会となった。

遺伝子染色体検査研究班では、先日行われたアンケート調査などをもとに、この第1回研修会を皮切りに会員の皆様が望む研修会を行っていきたいと考えている。今後の研修会活動に期待してください。

(文責：小内玲子)

## テーマ 微生物検査のリアルタイムPCR活用法 ～ PCRの基本から結果解釈まで ～

主催 微生物検査研究班

実施日時：2022年11月18日 18時30分～19時45分

会場：Web開催 教科・点数：専門－20点

講師：村井 美代 (埼玉県立大学)

参加人数：会員69名

出席した研究班班員：小棚雅寛 酒井利育 今井英美 岸井こずゑ 伊波嵩之 渡辺駿介  
大塚聖也

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は「微生物検査のリアルタイムPCR活用法 ～PCRの基本から結果解釈まで～」をテーマとし、村井氏を講師にWebにて開催した。

核酸の抽出法にはシリカメンブレン法や磁気ビーズ法があり、グアニジンイソチオシアネートを使用しRNaseを不活化するなど、抽出法の原理についてわかりやすい説明があった。

PCRの原理は、95℃で2本鎖DNAを1本鎖にし(熱変性)、55℃前後に温度を下げてプライマーを結合させ(アニーリング)、72℃に温度を上げ耐熱性DNAポリメラーゼの作用で相補的DNAが合成される(伸長)。熱変性、アニーリング、伸長を1サイクルとし、サイクルを回すことで標的DNAを増幅させ、得られた増幅産物を電気泳動により検出する。また、プライマーやDNAポリメラーゼの働きによりDNAの複製が行われることや、相補性の違う塩基が結合した場合でもDNAポリメラーゼの働きにより修正される校正作用について説明があった。

リアルタイムPCRは、PCR反応の過程をインターカレーター法や加水分解プローブ法などの蛍光検出系でリアルタイムにモニターし、増幅産物を検出する。従来のPCR法と違い、増幅と

検出を同一ウエルで行うことで標的核酸を迅速に検出できることや、既知濃度の標的物質を段階希釈しCT値より検量線を作成し、サンプル中の目的DNA濃度を求める絶対定量について解説があった。

MRSAの遺伝子検査はMRSAに特異的な3つの遺伝子を検出することで、血液培養陽性の培養液より直接MRSAを検出するマルチプレックスPCRが紹介された。

今回の研修会は、PCRの原理や操作法の注意点など遺伝子検査の基礎についてわかりやすく解説があった。研修会で得た知識を活かして日常業務に役立てていただきたい。

(文責：酒井利育)

## テーマ **骨髓検査初級者・二級・血液認定目指す方必見!!** **基礎から始める骨髓形態セミナー**

主催 血液検査研究班

実施日時：2023年1月22日 12時30分～17時00分

会 場：学校法人明星学園 国際医療専門学校 教科・点数：専門—20点

講 師 1：星 聖子（独立行政法人 地域医療機能推進機構 さいたま北部医療センター）

講 師 2：中山 智史（防衛医科大学校病院）

講 師 3：澁川 絵美（自治医科大学さいたま医療センター）

参加人数：会員27名

出席した研究班班員：中山智史 澁川絵美 星聖子 加藤鉄平 島田崇史 吉澤悟 石田沙妃

研修内容の概要・感想など

今回の研修会は第1回骨髓形態セミナーとして、実習形式で行われた。始めに事前に参加者に配布していた骨髓細胞画像30問の解説を行い、その次に骨髓検査の基礎から標本観察方法についての講義、最後に顕微鏡を使用した標本観察を行い、骨髓標本から得られた所見をまとめ、その解説を行った。以下に参加者の感想を掲載する。

(文責：加藤鉄平)

株式会社ビー・エム・エル  
加賀 朋子

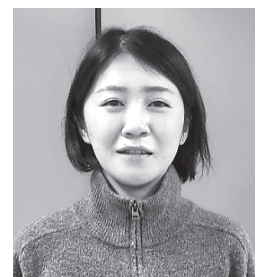
この度は研修会を開催していただきありがとうございました。私は10年以上のブランクの後に再び臨床検査技師として勤務を開始しましたが、知識が足りていないことを日々痛感していました。そのため基礎から学び直したいと思い参加しました。普段の業務で骨髓標本を鏡検することがなかったため、基本的な質問をしてもすぐご指導いただける環境でしたのでとても勉強になりました。学んだことを今後の業務にいかしていきたいです。



済生会川口総合病院  
星 このみ

今回初めて骨髓形態セミナーに参加させていただきました。当院では骨髓検査を行っていますが、症例数はとても少なく貴重な症例の検討をさせていただき、とても勉強になりました。

骨髓形態セミナー受講前にいただいた事前資料の30症例においては、骨髓中の各細胞の鑑別のポイントを解説していただき、鏡検前自分なりに基礎の確認をすることができました。骨髓検査の基礎知識における講義では、骨髓検査の検体採取からはじまり、標本評価から報告書作成ポイントまで



細かく解説していただきました。知識が未熟な私は、骨髄検査所見用紙に準じて観察を進めていくことが一番スキルアップに繋がるのだと改めて感じました。鏡検実習においては、色々な症例を研究班員の方にお聞きしながらも、自分で考える時間を設けていただき、とても充実した時間でした。また機会があればぜひ参加し、スキルアップに努めていきたいです。



## テーマ **がんゲノム医療における臨床検査技師の役割** ～今後の展望～

主催 遺伝子染色体検査研究班・病理検査研究班 合同

実施日時：2023年2月10日 18時00分～19時00分

会 場：Web開催 教科・点数：専門-20点

講 演 1：がん遺伝子パネル検査の現状と臨床検査技師の関わり方

講 師 1：鎌倉 靖夫（埼玉医科大学国際医療センター がんゲノム医療センター）

講 演 2：がんゲノム医療における検査の留意点について

講 師 2：柿島 裕樹（国立がん研究センター中央病院）

参加人数：会員158名

出席した研究班班員：

（遺伝子染色体検査）小内玲子 松岡優 園山政行 石橋佳朋 折原悠太 相良真理子

（病理検査）関口久男 森田繁 高橋俊介 小島朋子 細沼佑介 今村尚貴 遠山人成

松本祐弥 三鍋慎也

今回は遺伝子染色体検査、病理検査の研究班合同研修会として、「がんゲノム医療における臨床検査技師の役割」をテーマに開催した。

鎌倉氏は「がん遺伝子パネル検査の現状と臨床検査技師の関わり方」と題し、自施設での実績を基に解説した。がん遺伝子パネル検査は年々増加傾向にあるとのことで、現在の医療において重要な位置を占めることが窺われた。その中で臨床検査技師は、検査手順の説明、患者用資料の配布、講習会開催案内、C-CATへの登録、エキスパートパネルの運営等、一連の検査の中で多くの部分に携わり、多職種を繋ぐ架け橋のような役割を果たしていることがわかった。また、がんゲノム医療コーディネーターと連携し、検査全体を把握・コントロールしていくことが大切であると感じた。

柿島氏は「がんゲノム医療における検査の留意点について」と題し、検体の品質管理の重要性を解説した。がん遺伝子パネル検査の検体は、基本的に手術等により摘出されたがん組織であるので、病理検査での固定液、採取から固定までの時間、固定時間、パラフィンブロックの保管状況、保管期間等が、検査に影響を与えるファクターとなる。これらを管理していくことが臨床検査技師に求められているとわかった。また、DNAだけではなく、RNAの抽出を考慮した病理検体の取り扱いが、今後求められるであろうとのことであった。

がんゲノム医療は身近なものになってきており、今後も確実に増えていくと考えられる。我々臨床検査技師は、検査のエキスパートとしてがん遺伝子パネル検査の中心的役割を担っていかねばならないと感じた。今回の研修会が「ゲノム医療において臨床検査技師として自分は何ができるか」を考えるきっかけになってもらえれば幸いである。

（文責：三鍋慎也）

**令和4年度  
公益社団法人埼玉県臨床検査技師会  
第12回 理事会議事録**

日 時：令和5年2月9日(木) 19時00分より

場 所：埼臨技事務所

さいたま市浦和区領家7-14-7

議 題：Ⅰ. 行動報告 Ⅱ. 報告事項

Ⅲ. 承認事項 Ⅳ. 議題

出 席：現地にて出席

(理事) 神山 松岡 猪浦 山口 濱本

長澤 松寄 阿部 網野 佐瀬

三木 塚原 神嶋 伊藤(隆)

石井 神戸 小林 長岡

久保田 長谷川

(監事) 遠藤

Zoomにて出席

(理事) 松尾

(監事) 細谷

欠 席：(理事) 伊藤(恵)

本日の理事会の出席者は23名であった。理事の出席者は21名で、現在22名の過半数に達しており、定款第33条第1項の決議を行うに必要な要件を満たしていることを確認した。

議長は、定款第32条第1項より、神山清志会長が務めることとなった。

## Ⅰ. 行動報告

(令和5年1月12日～令和5年2月8日)

1月12日(木) 令和4年度第11回理事会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、長澤、松寄、阿部、松尾、網野、佐瀬、三木、塚原、伊藤(恵)、神嶋、伊藤(隆)、神戸、石井、小林、長岡、久保田、長谷川、細谷

1月13日(金) 日医松本会長面談(日臨技宮島会長の随行)：神山

1月13日(金) 日臨技表彰選考委員会：神山

1月14日(土) 日臨技執行理事会：神山

1月15日(日) タスクシフト指定講習会(埼玉県011)：

猪浦、松寄、石井、伊藤(恵)、長谷川、佐瀬、網野、小林

1月17日(火) 令和4年度埼玉県医師会ブラインド調査事前打合せ：  
神山、神戸、山口

1月17日(火) 第51回埼玉県医学検査学会実行委員会：三木、佐瀬

1月18日(水) 人事委員会：

神山、松岡、猪浦、山口、濱本、長澤、松寄

1月19日(木) 第50回埼玉県医学検査学会実行委員会：三木、佐瀬

1月20日(金) 日臨技支部長連絡会議：神山

1月20日(金) 日臨技理事会事前会議：神山

1月21日(土) 日臨技理事会：神山

1月23日(月) 日臨技品質保証施設認証 共通審査員打合せ：神山

1月26日(木) 日臨技精度管理サポート事業企画部会：神山

1月28日(土) 日臨技予算実績WG会議：神山

1月31日(火) ワークライフバランス推進委員会研修会事前録画作業：  
塚原、神嶋、伊藤(恵)

2月2日(木) レイボックホール事前施設見学と確認：長澤、阿部

2月4日(土) 第8回埼玉県医師会新年会：  
神山、阿部、神戸

2月7日(火) 検査室管理運営委員会研修会事前打ち合わせ：塚原

2月8日(水) 埼臨技リーダー研修会打合せ：  
松岡、山口、濱本、松寄、佐瀬

## Ⅱ. 報告事項

### 1 事務局

1) 1月19日(木) 第14回埼玉県輸血フォーラムへ後援承諾の回答をした

2) 1月19日(木) 第36回埼玉県診療放射線学会へ後援承諾の回答をした。

3) 1月30日(月) 日臨技地域貢献賞について当会会員篠塚洋明氏の受賞が決定した。

4) 人事委員会(メール会議)を開催。詳細については来月理事会にて報告。

5) 埼臨技リーダー研修会を2月23日(木)に開



催予定。(別紙資料1)

- 1) 川越市の会計年度任用職員(衛生検査所立入検査員)に神山清志氏、荻野毅史氏、武関雄二氏を推薦した。

## 2 総務部

- 1) 2月15日(水)埼臨技だより525号発行予定。
- 2) 1月15日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県011)を国際医療専門学校で開催した。(別紙資料2)
- 3) 2月19日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県012)を国際医療専門学校で開催予定。管理運営責任者は松寄次長。実務委員は神戸、塚原、伊藤(恵)、神嶋、佐瀬、網野、猪浦。
- 4) 3月19日(日)タスクシフト指定講習会(埼玉県013)を国際医療専門学校で開催予定。
- 5) 今後のタスクシフト指定講習会を4月16日、6月18日、7月16日、9月17日、国際医療専門学校で開催予定。8月は19日(土)で調整中。
- 6) 2月2日(木)大宮レイボックホールにて施設見学と打ち合わせを行った。(別紙資料12)

## 3 事業部

- 1) 1月31日(火)ワークライフバランス推進委員会研修会講師、梶山氏の講演録画作業を行った。(別紙資料3)
- 2) 2月7日(火)検査室管理運営委員会研修会講師、根生氏との通信環境と講演内容の確認を行った。(別紙資料13)

## 4 学術部

- 1) 第72回日本医学検査学会一般演題座長候補者の推薦について登録を完了した。(別紙資料4)

- 2) 生涯教育研修プログラム4・5月分を埼臨技だより2月号に同封予定。

## 5 精度保証部

- 1) 埼臨技だよりと埼臨技HPへ2022年度審査日臨技品質保証施設認証制度のお知らせを掲載する。

## 6 会計部

- 1) 令和4年度正会員費5名25,000円、入会金3名3,000円、再入会金2名2,000円、合計

30,000円の入金があった。

- 2) 日臨技より生涯教育推進事業研修会助成金128,000円の入金があった。
- 3) 石井印刷に埼臨技だより第524号印刷代194,040円を支払った。
- 4) 令和4年度臨時総会資料の詳細説明について(別紙資料11)

## 7 精度管理委員会

- 1) 1月17日(火)令和4年度埼玉県医師会ブラインド調査事前打ち合わせを行った。(別紙資料5)

## 8 一都八県会長会議 特になし

## 9 日臨技関甲信支部 特になし

## 10 日臨技 特になし

## 11 第50回埼玉県医学検査学会

- 1) 1月19日(木)第15回学会実行委員会を開催した。第50回埼玉県医学検査学会実行委員会は解散となる。(別紙資料6)

## 12 第51回埼玉県医学検査学会

- 1) 1月17日(火)第4回実行委員会を開催した。(別紙資料7)

## Ⅲ. 承認事項

### 1 事務局

- 1) 会員動向(令和4年度分)  
令和5年2月1日現在  
会員数 3,469名[令和3年度会員数3,329名]  
(新入会員 289名)  
賛助会員 71社[令和3年度 76社]  
承認された。

### 2 総務部 特になし

### 3 事業部 特になし

### 4 学術部

- 1) 血清検査研究班班員の承認について(別紙資料8)  
公募していた血清研究班員について応募があったので承認いただきたい。

上記の件について、長岡部長から発言があり、審議の結果、森圭介氏(浦和医師会メディカルセンター)の血清研究班への就任が承認された。

- 2) 研究班員の退任について  
生理検査研究班

退任者：森 充生 氏

(自治医科大学附属

さいたま医療センター)

退任日：令和5年3月31日

血液検査研究班

退任者：星 聖子 氏

(JCHOさいたま北部医療センター)

退任日：令和5年3月31日

上記の件について、長岡部長から発言があり、審議の結果、承認された。

3) 血液研究班の公募について (別紙資料9)

上記の件について、長岡部長から発言があり、審議の結果、部門別研究班運営規程の該当しない班員の補充公募であり、不承認となった。

4) 令和5年度研究班事業計画変更について

(別紙資料10)

上記の件について、長岡部長から発言があり、審議の結果、承認された。

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

7 精度管理委員会 特になし

8 第50回埼玉県医学検査学会

1) 第50回学会決算について

別紙資料6-2について承認いただきたい。

上記の件について、三木学会担当理事、50回学会会計部長であった神戸考裕精度保証部長から発言があり、審議の結果、承認された。

9 第51回埼玉県医学検査学会

特になし

#### IV. 議題

1 事務局 特になし

2 総務部 特になし

3 事業部 特になし

4 学術部 特になし

5 精度保証部 特になし

6 会計部 特になし

以上で本日の議事を終了し、議長は協力を謝して閉会とした。

## あ と が き

今はまだ2月初旬で寒い日々が続いています。シベリアからの寒気が日本に来ては戻りを繰り返し、日本海側では大雪に見舞われ、長時間の自動車渋滞が発生しました。埼玉でも冷たい強風が吹き荒れ、早朝の気温が-6℃になり氷が張った日もありました。(県北だけ?) この冬は、ここ数年の中では「寒い冬」と言えるのではないのでしょうか?!

気象といえば「地球温暖化」が思い浮かびます。単調に暑くなる印象よりは、逆の寒いも含め気象現象の振れ幅が極端で、規模も大型化しているように見えます。そのためか、昨今では「気候危機」とも言うそうです。はたして、人類の知恵と創造で対応できるのでしょうか?!(そうであって欲しい! 結局のところ、超絶に優秀な人の功績に頼り、それに協力することになるのでしょうか...)

寒い~! から大きな話になってしまいました。ともあれ「だより」発行時には春の兆しを感じられるよう熱烈に切望しています。

(長谷川 記)

